

## プロローグ

筆者はこれまで教員免許状更新講習（以下、「更新講習」と略す）が開始されてきた2009年度より講師を務めてきた。<sup>(1)</sup>拙著『英語教育の行方』（2011）の「第3部 教育行政と英語教育」中で更新講習についてその行政の背景を取り扱い、2009年8月及び2010年8月の実際の更新講習の事例を紹介しながら、更新講習の問題等を述べて来た。<sup>(2)</sup>

本稿では更新講習の問題をさらに取り上げる共に、過去7年間（2009年度～2015年度）の更新講習での事例を紹介しながら、現場の教員が求めているもの等を明らかにし、大学で教職課程を担当している者として英語教材の可能性について考察していきたい。

## 1 更新講習開講校

更新講習を開講するためには文部科学省の示す「免許状更新講習の認定申請等要領」に従って申請する必要がある。<sup>(3)</sup>

申請回	申請締切日（必着）	認定時期	受講者募集開始日
第1回	平成27年12月1日	平成28年1月中旬	平成28年2月16日以降
第2回	平成28年1月15日	平成28年2月中旬	平成28年3月16日以降
第3回	平成28年2月16日	平成28年3月中旬	平成28年4月16日以降

免許状更新講習認定申請書提出期限は、講習開始日の3か月前までとなっておりますので、ご注意ください。<sup>(4)</sup>

更新講習でよく取り上げられるのは、講習の内容は受講者側の負担等についてである。しかし、更新講習開講校について触れられることはあまりない。多くの大学は次年度の年間計画等を合わせて、この更新講習の時期を設定しなければならない。筆者の勤務する大学でも第1回の申請に合わせるべく、年間計画と調整しながら進めている。開講校にとって大

きな問題は2点あろう。第1点は担当講師、第2点は開講の時期である。第1については教職課程の認定を受けている大学としては、特に教職に関する科目の授業担当者が適任者となろう。さらに、更新講習の最大の目的は最新の研究内容、研究報告を現職の幼小中高教員に提供することだ。ここで注意したい点は最新の研究を提供しても、それが現場でいかにかせるような内容としてどう講習内容を構成するかということだ。また、受講する現職教員の意識をどう高めていくかということだ。第2については受講する現職教員が受講できる時期に講習を設定する必要がある。こうなると土日、あるいは長期休暇中に設定することになる。開講校の負担も決して少なくない。文科省によると開講状況は以下の通りである。(5)

#### 平成25年度

認定大学数等 491大学等

必修領域 316大学等、781講習

選択領域 476大学等、7363講習

#### 平成26年度

認定大学数等 506大学等

必修領域 326大学等、804講習

選択領域 490大学等、7502講習

#### 平成27年度

認定大学数等 527大学等

必修領域 339大学等、821講習

選択領域 510大学等、7841講習

認定大学とは更新講習開講校である。更新講習を開講するためには文科省の認定が必要なためである。この認定数が多いのか、少ないのかを判断するのは難しいが、少なくとも更新講習を申し込む受講者は複数の

開講校を申し込み、何とか講習場所を確保しているのが現状である。更新講習は現職の幼小中高教員、さらに保育教諭という考え方から保育士も講習対象者になっている。当初の計画とは異なっている傾向がいくつか出ている。当初は現職教員、あるいは着任が予定されている教員だった受講資格が、現職教員、あるいは着任が予定されている教員予定者、免許保有者、さらに保育士といったところまで広がりを見せている。それを考えれば、認定は徐々に増えているが受け皿が充分であるとは言えない。平成26年5月1日の学校基本調査によれば、幼小中高、中等教育、特別支援での本務として勤務している教員は1,097,993人である。<sup>(6)</sup>

これに保育士が加わることとなる。もちろん、更新講習対象者の人数ではないが、これ以外に教員免許状を保有しているが実際に教員をしていない人も対象者となればその数の把握は難しいだろう。筆者の本務校は狭山市にあるが、狭山市で現在、更新講習の認定大学は3校だけである。なお、筆者の大学は更新講習開始時から開講しているが、当時は2校だけという状態であった。筆者の大学は短期大学を併設し、両校が教職課程の認定をうけているため、幼稚園教諭から高等学校教諭までその講習を開講することができる。本学の思いは卒業生等のアフターケアという考え方が中心であり、本学卒業生以外の一般の方への学びの場の提供という社会貢献ということになる。ほとんどの大学の長期休暇中に開催することになり、特に8月がその時期となろう。そうなれば開講する大学は担当教員や事務員の出勤、施設の使用となりなる。最近は授業回確保の観点から8月上旬まで定期試験等が伸びているところも少なくない。様々な皺寄せは開講大学が負うことになる。講習後は当然のことながら、認定のための試験、採点、そして大学としてこれを判定するための教授会が必要となる。単に講習を開講すればよいというものではない。その後の判定等、大学として認定することが重要である。

当初は自民党から民主党への政権交代がなされた時には更新講習が撤廃されるなどという噂もあったが、実際にはそのようなこともなく、反

対にいまだに無免許で教員として教壇に立っていたことが明らかになる報道までであった。(7)

## 2 実際の更新講習の事例と分析

2015年8月の「英語教育にかかわる指導力の向上」で英語教材として取り上げたのは *The Day My World Changed from I Am Malala* (2013)、マララ・ユフザイ／金原瑞人＋西田佳子訳『わたしはマララ』(学研パブリッシング、2013年12月)である。更新講習の最大の趣旨である最新ということに沿い、最年少で2014年にノーベル平和賞受賞のマララのスピーチと *I Am Malala* (2013) の冒頭“The Day My World Changed”を取り上げた。

### マララさんの国連演説スピーチ(2013年7月12日)

Dear brothers and sisters, we must not forget that millions of people are suffering from poverty, injustice and ignorance. We must not forget that millions of children are out of schools. We must not forget that our sisters and brothers are waiting for a bright peaceful future.

親愛なる少年少女のみなさん、私たちは今もなお何百万人もの人たちが貧困、不当な扱い、そして無学に苦しめられていることを忘れてはいけません。何百万人もの子どもたちが学校に行っていないことを忘れてはいけません。少女たち、少年たちが明るい、平和な未来を待ち望んでいることを忘れてはいけません。

So let us wage a global struggle against illiteracy, poverty and terrorism and let us pick up our books and pens. They are our most powerful weapons.

無学、貧困、そしてテロリズムと闘いましょう。本を手に取り、ペン

を握りましょう。それが私たちにとってもっとも強力な武器なのです。

One child, one teacher, one pen and one book can change the world.  
Education is the only solution. Education First.

1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペン、それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。エデュケーション・ファースト（教育を第一に）。ありがとうございました。<sup>(8)</sup>

マララさん「子どものため行動を」ノーベル賞受賞演説(2014年12月10日)

As we are living in the modern age, the 21st century and we all believe that nothing is impossible. We can reach the moon and maybe soon will land on Mars. Then, in this, the 21st century, we must be determined that our dream of quality education for all will also come true.

So let us bring equality, justice and peace for all. Not just the politicians and the world leaders, we all need to contribute. Me. You. It is our duty.

So we must work...and not wait.

I call upon my fellow children to stand up around the world.

Dear sisters and brothers, let us become the first generation to decide to be the last.

The empty classrooms, the lost childhoods, wasted potential?

Let these things end with us.

Let this be the last time that a boy or a girl spends their childhood in a factory.

Let this be the last time that a girl gets forced into early child marriage.

Let this be the last time that an innocent child loses their life in war.

Let this be the last time that a classroom remains empty.

Let this be the last time that a girl is told education is a crime and not a right.

Let this be the last time that a child remains out of school.

Let us begin this ending.

Let this end with us.

And let us build a better future right here, right now.

Thank you.

21世紀の現代に生きる私たちは、不可能なことはないと信じています。月にだって行けるし、火星にもそのうち着陸するかもしれない。ですから、この21世紀に、誰もが良質な教育を受けられるという夢もかなうのだとの決意を持たなければならないのです。

平等と正義、そして平和をみんなにもたらしましょう。政治家や世界の指導者たちだけでなく、全員が貢献する必要があります。私も、あなたも。それが私たちの義務なのです。

だから、立ち止まらず、努力しなければなりません。

私の仲間である子どもたちに、世界中で立ち上がるよう求めます。

親愛なる姉妹、兄弟たちよ。最後になることを決める最初の世代になりましょう。

空っぽの教室、失われた子ども時代、生かされなかった可能性。これらを私たちでもう終わりにしましょう。

少年や少女が子ども時代を工場で過ごすのは、もう終わりにしましょう。

少女が児童婚を強いられるのは、もう終わりにしましょう。

純真な子どもが戦争で命を落とすのは、もう終わりにしましょう。

教室が空っぽのままであり続けるのは、もう終わりにしましょう。

教育は権利ではなく犯罪だと少女が言われるのは、もう終わりにしましょう。

子どもが学校に行けない状況は、もう終わりにしましょう。

終わりにすることを始めましょう。

私たちで終わりにしましょう。

今ここで、より良い未来を築きましょう。

ありがとうございました。<sup>(9)</sup>

演説は英語スピーチには最適なテキストになる。さらに 1997 年生まれのマララはまさに中高生にとっては年代的にも近く、彼女の英語は難しい単語や言い回しもなく、ストレートにその内容を伝えるものだ。これまで英語のスピーチとえば、大統領の演説を利用することが多かったが、このマララのスピーチは受け入れやすい。むしろ、訳文の日本語のほうがやや難しくなっている。例えば“early child marriage”を訳文では「児童婚」となっている。訳語自体が日本語としてあまりなじみのないものだ。スピーチにとって最も重要なのはリズムとあってよい。Let による繰り返しは読み手にとってはリズムを取りやすく、また、聞き手にとっても印象的なものとなる。“One child, one teacher, one pen and one book can change the world. Education is the only solution. Education First.” というメッセージも簡単な単語を使用しているが、その内容は明確化されている。使用されている単語がそれぞれ、「教育」(education)という言葉と連想させるもので構成されている。最大のポイントは“Education can change the world.”と言わずに、“one child, one teacher, one pen, one book”と one を繰り返したことだ。let の場合もそうであるが、単純な言葉の繰り返しはリズム感が生まれ、耳に残る。

次に *I Am Malala* (2013) の冒頭 “The Day My World Changed” を取り上げた。

I come from a country that was created at midnight. When I almost died it was just after midday.

One year ago I left my home for school and never returned. I was shot by a Taliban bullet and was flown out of Pakistan unconscious. Some people say I will never return home, but I believe firmly in my heart that I will. To be torn from the country that you love is not something to wish on anyone. <sup>(10)</sup>

わたしは、真夜中につくられた国生まれ育った。瀕死の重傷を負ったのは、正午をほんの少しすぎた頃。一年前のある日、私は学校に行つて、それから家に帰っていない。タリバンの銃弾を頭に受けて、意識を失ったまま、パキスタンからイギリスに運ばれた。私が生きて故郷に帰ることはないだろうという人もいるけど、わたし自身は、いつかきっと帰れる日が来ると信じている。愛する祖国から引き離されたまま生きていかなければならないなんて、だれにとっても耐えがたいことだ。<sup>(11)</sup>

下線部が注目すべき点である。補足して「イギリスに」が加わっている。これは翻訳する際に、翻訳者が内容を明確化するために「イギリス」を加えた例である。読者の理解の一助となっている。

Peace in every home, every street, every village, every country—this is my dream. Education for every boy and every girl in the world. To sit down on a chair and read my books with all my friends at school is my right. To see each and every human being with a smile of happiness is my wish.

I am Malala. My world has changed but I have not. <sup>(12)</sup>  
すべての家庭に、すべての村に、すべての町に、すべての国に、平和

が訪れること—それがわたしの夢。世界じゅうのすべての男の子とすべての女の子が教育を受けられますように。わたしには、学校の椅子に座って、クラスメートたちといっしょに教科書を読む権利がある。すべての人間がにこにこしながらしあわせに暮らせる日が、いつか来てほしい。

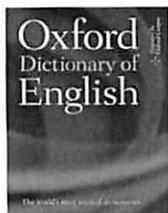
わたしはマララ。わたしを取り巻く世界は変わったけれど、わたしは変わっていない。(13)

英作文や英語スピーチのテーマとしてよく「私の夢」(My dream)が取り上げられることがある。これはこれまでこうしたテーマでは Martin Luther King Jr. (1929-1968)の“I have a Dream.”(1963年8月28日)のスピーチが取り上げられているが、マララのスピーチは中学高校生にとっては年齢的にも、また、その語彙から言ってもより身近に感じるだろう。この英文ではスピーチと同様に繰り返しの手法が使われており、every という単語がリズムと醸し出している。2015年度の更新講習で初めて取り上げたが、受講者である現職の中学・高等学校の教員にはかなり関心の高いものであった。講習後にちょうどこのスピーチを教材として使用する予定の教員もおり、意見交換ができた。教材の選定の中で重要なことに「同時代性」があげられる。TVだけではなく、最近ではYoutube といったインターネット等により動画等が簡単に見ることができる。

過去数年間取り上げた資料として受講者より特に関心が寄せられたものはマンガやアニメから英語の要素を取り上げたものと *Oxford Dictionary of English* (2010)より英語になった日本語を紹介した。マンガやアニメから英語の要素を取り上げたものについてはこれまで活字化や研究発表をする機会があったためここでは割愛する。(14)

*Oxford Dictionary of English* (2010)をポップカルチャーの点から次の単語に注目した。“anime, bento, cosplay, hikikomori, karaoke,

kawaii, manga, otaku” の8つである。なお、この時初めて掲載されたのは、“hikikomori”である。



anime ▶noun[mass noun] Japanese film and television animation, typically having a science-fiction theme and sometimes including violent or explicitly sexual material. Compare with MANGA.

—ORIGIN 1980s: Japanese. <sup>(15)</sup>

新しい英和辞典でも“anime”は見出し語として掲載されている。animation と anime が異なる点は anime は Japanese film and television animation ということになり、anime は日本のアニメーションのことを「アニメ」ということになる。欧米の、世界のアニメーションと日本のアニメが異なるという点を強調していることになる。詳細な分析については拙著『クール・ジャパン マンガ/アニメの現状と展望について』(2010)、『英語教育の行方』(2011) で取り扱っている。

bento ▶noun(bentos) a lacquered or decorated wooden Japanese lunch box. ■ a Japanese style packed lunch, consisting of such items as rice, vegetables, and sashimi.

—ORIGIN Japanese. <sup>(16)</sup>

この定義では sashimi が入っているところで本来の「弁当」の在り方とは異なった捉え方をしていることがわかる。持ち帰り用の寿司弁当のような考え方をしているようにも思えるが、sushi といった用語が使用されていないことから、日本の食文化に対する混乱が見られる事例である。更新講習ではかなりインパクトがあったようだ。通常、お弁当にはなま物を使用しないという考え方に十分に理解されていない。

cosplay ▶noun[mass noun] the practice of dressing up as character from a film, book, or video game, especially one from the Japanese genres of manga or anime.

▶ verb[no obj.] engage in cosplay.

—DERIVATIVES cosplayer noun.

—ORIGIN 1990s: blend of COSTUME and PLAY<sup>(17)</sup>

英語には *costume play* という表現があるが、それがあえて *cosplay* となっている点について、 *a character from a film, book, or video game, especially one from the Japanese genres of manga or anime* と同様に日本のマンガやアニメのキャラクターが原点となる場合がある。単なる英語の単語の解説から日本のポップカルチャーが海外に与えた影響を扱うことにもなる。日本政府が注目している文化外交を取り扱うことにもつながる。コスプレと言えば、2015年のハロウィンは特にその派手さが目立ち、J-CAST ニュースでも次のように報道された。

日本記念日協会・記念日文化研究所によると、2015年のハロウィンの市場規模（推計）は前年比11%増の約1220億円。14年のバレンタインデー市場（約1080億円）を上回り、11年の560億円からわずか4年で倍増した。<sup>(18)</sup>

このハロウィンの躍進の立役者がまずにコスプレであることはハロウィン性格上明らかである。<sup>(19)</sup>

次の注目すべきは *hikikomori* である。現代日本を象徴するような言葉であるが、この言葉もいよいよ紙辞書に登場した。

**hikikomori** ▶noun(pl.same)[mass noun](in Japan) the abnormal avoidance of social contact, typically by adolescent males.

■ [count noun] a person who avoids social contact.

—ORIGIN Japanese, literally ‘staying indoors, (social) withdrawal.’<sup>(20)</sup>

**hikikomori** についてはインターネット上ではこれまで使用されてきたが、いわゆる英語の紙辞書では今回はじめて取り上げられた。詳細な分析は拙著『オタク文化論』(2012)で論じた。気になる点は **typically by adolescent males** と「ひきこもり」を主に男性としている点である。ジェンダーに対する考え方については日本よりも進んでいる欧米が、このように定義 **typically by adolescent males** とした点については疑問も残るが、宮崎勤の少女連続殺人事件が固定観念を植え付けられた事例かもしれない。東京・埼玉連続少女誘拐殺人事件は 1988 年 8 月から 1989 年 7 月にかけて宮崎勤(1962-2008)が引き起こした事件である。逮捕後の家宅捜索では約 6000 本のビデオテープの存在が明らかになり、その光景も報道番組で取り上げられたことは視聴者に鮮明な印象を与えた。

**karaoke** ▶noun[mass noun] a form of entertainment, offered typically by bars and clubs, in which people take turns to sing popular songs into a microphone over pre-recorded backing tracks.

—ORIGIN 1970s: from Japanese, literally ‘empty orchestra.’<sup>(21)</sup>

**karaoke** は日本から発信された商品であると同時に、今や日本を代表する文化アイテムでもある。しかし、**bars and clubs** とあるが、実際にはカラオケ専門店もあり、今やこの定義も実情には追いついていない状態

である。

kawaii は最も表現しにくい語かもしれない。まずは定義を見てみよう。

kawaii ▶adjective (in the context of Japanese popular culture) cute:  
*she paints elephants that are extremely kawaii.*

▶noun [mass noun] the equality of being cute, or items that are  
cute.

—ORIGIN Japanese. <sup>(22)</sup>

実際には「キモカワイイ」「グロカワイイ」など反対の概念が組み合わさった奇妙な単語であるため、単に cute はで表現はできない。この kawaii の分析については拙著「現代日本の美意識『カワイイ』」(2011)、『日本文化ブームから文化外交まで』(2011)、「kawaii の行方」(2012) を参照してもらいたい。

anime と同様に manga は日本のポップカルチャーを代表するアイテムになっている。

manga ▶noun [mass noun] a Japanese genre of cartoons, comic books, and animated films, having a science-fiction or fantasy theme and sometimes including violent or sexually explicit material.

—ORIGIN Japanese, form *man* ‘indiscriminate’+*ga* ‘picture’.

<sup>(23)</sup>

指摘すべき内容は anime と同様であるため、詳細な分析については拙著『クール・ジャパン マンガ/アニメの現状と展望について』(2010)、『英語教育の行方』(2011) で取り扱っている。

最後に紹介するのは otaku である。英語にはまともと geek や nerd とい

った単語があるが、otaku もはやり日本の影響が強く見られる。

otaku ▶noun (pl.same)(in Japan) a young person who is obsessed with computers or particular aspects of popular culture to the detriment of their social skills.

—ORIGIN Japanese, literally ‘your house’, alluding to the reluctance of such young people to leave the house. (24)

詳細な分析は拙著『オタク文化論』(2012)で論じているが、筆者が注目したのは a young person, popular culture という表現である。今やオタクと呼ばれる人は必ずしも a young person とは限らないことが多い。

## エピローグ

更新講習の最大の狙いは最新の研究を提供することにある。Malala Youzafzaiのスピーチと出版本についてはタイムリーであった。身近な話題であり、英語の語彙や年齢的にも中高生には最適な教材となるものだ。実際にその年に英語スピーチで活用する教員との意見交換等ができたことは大きな成果があった。

また、ポップカルチャーに焦点を当てながら英語教材を考えることは大きな意味がある。マンガやアニメを活用した英語教材では教員自身がマンガやアニメのことをよく知っていることが前提となるため、実際の更新講習での反応も年齢により大きな差が生じていた。若い教員ほど反応がよかった。また、*Oxford Dictionary of English* (2010)から英語になった日本語の紹介は、予想以上の反応があった。現職の教員は多忙化もあり、いわゆる日本の英和辞典や和英辞典、電子辞書を活用することはあっても、海外の英語辞書を利用することはほとんどないといっていだろう。その意味でも、こうした紹介は大きな意味があった。10年に1

度の更新講習は、文部科学省から教職課程の担当教員が10年間の教育研究業績を求められていることを考えると、更新講習担当者自身も最新の状況を提供できるよう実績を積み重ねなければならない。

## 注

- (1) 筆者が務めて来た教員免許状更新講習の認定番号は以下の通りである。

「英語教育にかかわる指導力の向上」

(認定番号：平21-30100-54393号)

(認定番号：平22-30102-60046号)

(認定番号：平23-30105-51738号)

(認定番号：平24-30106-52077号)

(認定番号：平25-30106-51077号)

(認定番号：平26-30106-50628号)

(認定番号：平27-30106-52911号)

「国際理解」

(認定番号：平27-30106-52909号)

なお、2015（平成27）年度は2分野の講座を担当した。

- (2) 『英語教育の行方』（イーコン、2010年4月）の「第3部 教育行政と英語教育」で「第8章 小学校英語の行方」「第9章 教員免許更新講習」「第10章 英語教育から見た教育行政史」を取り上げた。

- (3) 文部科学省「免許状更新講習の認定申請等要領」

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/koushin/008/1362453.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/008/1362453.htm))

(2015年11月30日アクセス)

- (4) 文部科学省「平成28年度に開設する免許状更新講習の認定申請のスケジュール（予定）」

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/koushin/008/1298238](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/008/1298238).)

htm)(2015年11月30日アクセス)

(5) 文部科学省「教員免許更新制」

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/koushin/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/))(2015年12月3日アクセス)

(6) 「総務省統計局」 (<http://www.stat.go.jp/data/nihon/22.htm>)

(2015年12月3日アクセス)

(7) 「無免許で9年間教壇に…高校講師を懲戒免職 2015年11月4日」

(<http://www.news24.jp/articles/2015/11/04/07314039.html>)

(2015年12月3日アクセス)

(8) <http://www.msn.com/ja-jp?pc=UP97&ocid=UP97DHP>(2015年1月31日アクセス)

(9) [http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201412/20121211\\_73024.html](http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201412/20121211_73024.html) (2015年1月31日アクセス)

(10) Malala Youzafzai. *I Am Malala* (Little, Brown and Company 2013), p.10.

(11) マララ・ユフザイ／金原瑞人＋西田佳子訳『わたしはマララ』(学研パブリッシング、2013年12月)、p.12.

(12) *I Am Malala* (2013), p.293.

(13) 『わたしはマララ』、p.407.

(14) 筆者がマンガやアニメを英語教材として活用した事例の発表については以下の通りである。(下記以外にも高校生を対象にした特別授業なども行っている)

#### 活字化されたもの

「アニメを利用した英語教材研究」(『武蔵野英語教育研究』第2号、武蔵野英語教育研究会、2005年1月)

「第6章 アニメを利用した英語教材研究」(『教職課程と英語教育』イーコン、2006年5月)

「第10章 アニメを利用した英語教材研究」(『今後の教職課程と英

- 語教育』イーコン、2007年5月)
- 「(1) マンガとアニメ」(『クール・ジャパン マンガ/アニメの現状と展望にいて』イーコン、2010年4月)
- 「第3章 マンガ/アニメを利用した英語教材研究」(『英語教育の行方』イーコン、2011年4月)
- 「3 オタクの定義」「3 ひきこもり」(『オタク文化論』イーコン、2012年1月)
- 「①マンガとアニメ」(『日本文化ブームと国際文化交流』多生堂、2012年4月)

**研究発表・講演等**

- 「教材としての英米文学の行方」(日本英語文化学会、シンポジウム「大学における一般教養科目としての『英語』を考える」、2010年9月4日、於：駒澤大学)
- 「アニメ、スーパー戦隊シリーズからこんなことがわかる！」(子ども大学さやま 武蔵野学院大学・武蔵野短期大学、2014年1月18日)  
(子ども大学さやま)
- 「ポップカルチャーとオタク文化」(入間市教育研究所 特別授業、2014年2月20日～21日、24日～25日)
- 「英語の教材研究事例～ポップカルチャーの活用：アニメ・マンガを中心に～」(日本英語文化学会第129回月例会、2014年12月13日、於：昭和女子大学)
- (15) Stevenson, Angus, editor. *Oxford Dictionary of English*. (Oxford University Press, 2010. Third Edition), p.62.
- (16) Ibid., p.155.
- (17) Ibid., p.394.
- (18) 「ハロウィン市場 1220 億円、バレンタイン超え 日本独自のイベントに海外からも評価」  
(<http://www.j-cast.com/2015/10/25248645.html>)(2015年11月19日)

アクセス)

(19)詳細については拙著「ポップカルチャーとしてのハロウィン」(『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』第12輯、2016年3月発行予定)を参照ください。(入稿は2015年12月)

(20) *Oxford Dictionary of English*, p.828.

(21) Ibid., p.956.

(22) Ibid., p.958.

(23) Pearsall, Judy, editor. *The Concise Oxford English Dictionary*. (New York: Oxford University Press, Inc., 2002), p.865.

(24) Soanes, Catherine and Stevenson, Angus, editors. *Concise Oxford English Dictionary*. (Oxford University Press, 2004. Eleven edition), p.1013

【キーワード】 教員免許状更新講習、英語教材研究、ポップカルチャー

## 執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学教授  
教員免許状更新講習講師、英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅲを担当。

**武蔵野教育研究 第3巻第2号**

2016年2月25日 発行

武蔵野教育研究会 編集・発行

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号

武蔵野教育研究会事務局

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室